

図書館ニュース

メディアステーションをリニューアルしました

経緯

2000年の開学当初から、図書館・情報センターでは館内に約100台の学生用PCを配置してきました。これは、図書館の所蔵する資料と、ネットワーク上の情報をもとに、さまざまな学習や教育に活用できるように整備されたもので、中でも70台のデスクトップPCが整然と並ぶ「メディアステーション」は象徴的な場所でした。

一方、大学図書館にはグループワークやプレゼンテーションなどによるアクティブラーニングを実践する場としての役割が期待されるようになりました。当館に於いても、デザイン学科教授の宮田圭介先生を代表とする研究「ラーニング・ commonsのあるべき姿の検討」などに於いて、検討を行ってきました。

そして、令和3年度の本学年度計画に於いて「グループ学習を含む学生の能動的な学習を促進するためのラーニング・commonsの実現に向けた環境整備を進め、運用を開始する」ことが明記され、整備が実現することとなりました。

設置場所の選定

どの場所をグループワークエリアとして整備するかについては、ゼミの実施など館内での運用実験を通じて検討が進められました。例えば、館内の1階には既に「グループ学習室」が設置されていますが、図書館入口やカウンターからは遠く、確保できるエリアに限界があるなどの課題がありました。

その他の場所も含め比較検討した結果、入口から近く学生が立ち寄りやすいこと、外廊下とガラス面で接し開放的であること、独立した一定の空間を確保できること、ネットワーク環境の整備に適していることなどから、2階「メディアステーション」を改修して対応することとしました。

構想の具体化

まず、改修後のイメージをパネルにして展示したり、アンケートを実施したりして、利用者への周知を図りました。そして、センター長(当時)の伊豆裕一先生を中心に、教職員・学生の協働で検討を積み重ね、改修に向けた以下の案をまとめました。

メディアステーション改修計画 空間デザイン案「歴史と学び、体験が循環する」

1. 学内にいる名作家具の活用

開学当時に導入され、学内各所に分散していた名作家具を活用する。現代に至る約70年を超える歴史に家具を通して触れる。

2. 学びを促すアーカイブズ空間

館外の廊下側からは発表年代順に並ぶ椅子について情報を得ながら、実際に利用されている状況を見て学ぶ。館内では、実物に触れて使用し体感することを通して学ぶ。

3. 柔軟な利用形態

ホワイトボードやプロジェクターを使用できる場や、スキャナーやプリンターを使用した作業ができる場を確保する。複数での議論や、個人作業に対応する。

新たな利用法を実現

この案に沿って改修を進めた結果、「メディアステーション」は、ノートPCやタブレット端末で手軽に情報検索が行え、自由度の高い家具配置でグループワークなどのアクティブラーニングを実践できる場に生まれ変わりました。また、デザインアーカイブである名作家具を通して、それらが制作された時代に触れることのできる空間になりました。

本誌 Vol.39 でご紹介したように、2021年10月のメディアステーション プレオープンに合わせ、ポスター展「ポスターでみる20世紀 1950-1990」を開催。その後、利用状況に鑑み据付用PCテーブルなどを追加して導入し、2022年3月に改修を完了しました。



廊下より。家具とその情報が重ねあわされる



学内で使用されず眠っていた名作家具を調査



収集した家具を年代順に整理しそれらの情報を表示



名作家具を実際に使用しながら学ぶ